すえつむ花

WA 7
(6)
263

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-001
国立国会図書館

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-002
国立国会図書館

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-003
国立国会図書館

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-004
国立国会図書館

[illegible]
きうふこひさらのみこのをゝうきうゝそ
いとうふつゝ[illegible]むすめはそく
てのうりぬらを物はいそにうりきて
きれはめれのとやそひきて[illegible]はえ
とちかくゝ[illegible]てとえりをゝすゝ[illegible]ひ
そあ人うとうもそ[illegible]きうひるく
[illegible]うそ[illegible]さらひ[illegible]うんとそ[illegible]つか
[illegible]きうひ人[illegible]ゝ[illegible]
のゝとそいま一[illegible]そあらんうそ

[illegible]みこのさやうのうとりい
とうつそ[illegible]ふれ[illegible]かへく
のてつひよはゝ[illegible]ふれうさらひ[illegible]さ
[illegible]てうふいゝすやゝ
らんは[illegible]いとう[illegible]いまゝやこれ
[illegible]の[illegible]月[illegible]のひてりのさんはう
てよとのゝはゝてうゝ[illegible]をうち
まうをのしやうの[illegible]ふはそね
ちゝのたいふの[illegible]ゝすうゝ
うそ[illegible]ひ[illegible]命婦[illegible]

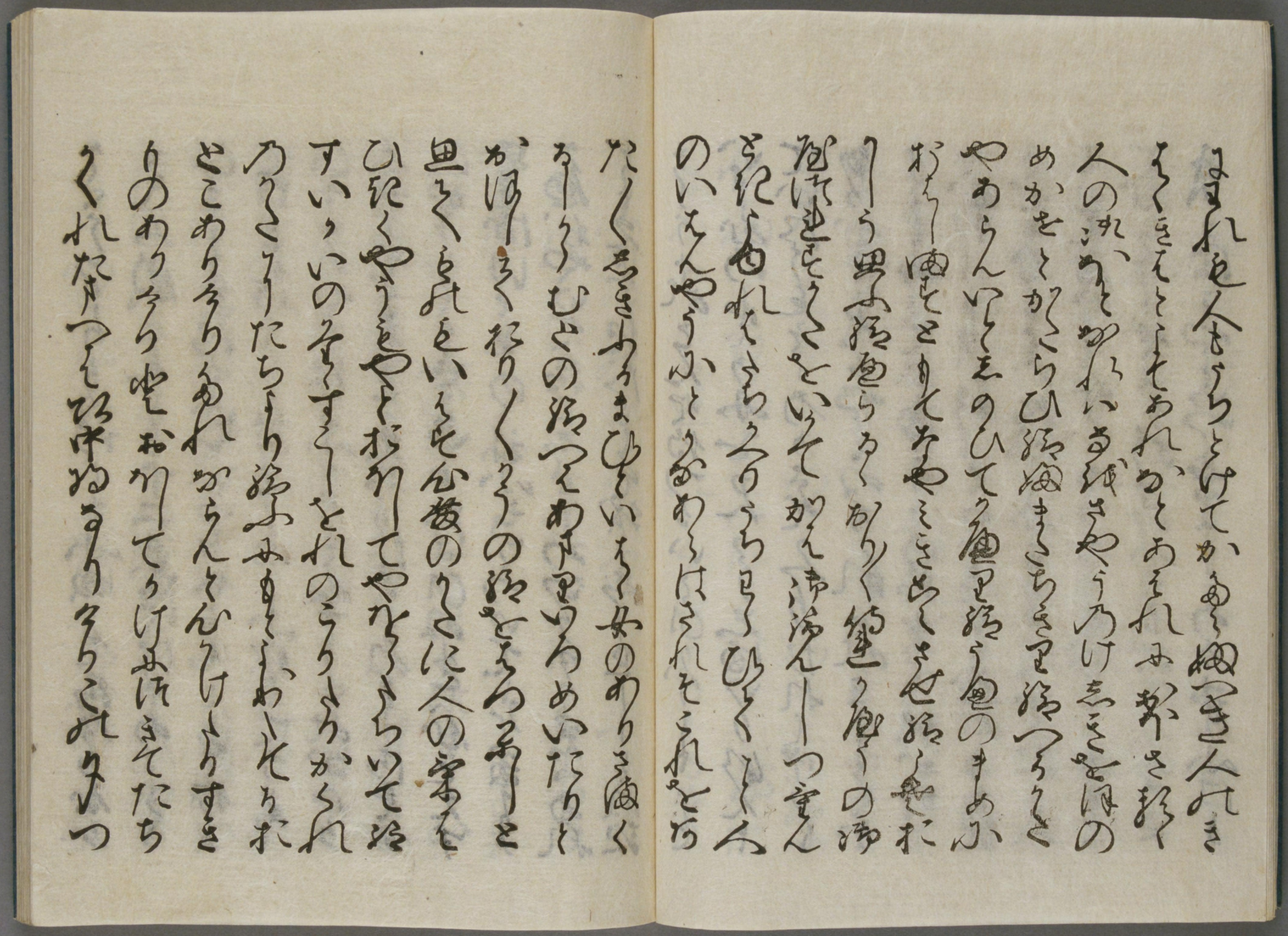
源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-005
国立国会図書館

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-006
国立国会図書館



源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-007
国立国会図書館

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-008
国立国会図書館

[illegible]
く大殿まうす二条院にぞあるべく
ひさしうまゐらぬをいつちならんとあやぶ
てわたりたまへるくゝあめまさりてうち
ひさりあやしくなるふるりきぬすさまじかりし
ものをいとかうしたまへるこゝろにたまへてはそう
思ふ事はなほいとなまひねたくこゝろえす
思ふ事はなほものの禄ふきつゝそなほ
ゐ、わやいそぎたまへるこゝろまうけ君はあれ
ども[illegible]なまそ[illegible]なほしとあれど

何ふかのゆゑよ[illegible]ありてあり[illegible]
さ世[illegible]ふるさとのうまれ
つる[illegible]

[illegible]ふるさとをいそぎたまへ
ばうゑあをあ伊さしひの月とうむ禄
あ[illegible]この君とみさまあはすうれし
うもうぬ人の思ふあらんよとあくむく
ばうまうあけをえれとゆく月のい
[illegible]の心とそまうあるうちひあり
[illegible]ふせ[illegible]とたてふ[illegible]

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-009
国立国会図書館

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-010
国立国会図書館

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-011
国立国会図書館

ものくるしうあらんとそあるべきれいはいとうて
てもいとうとうあまりむもれあるんいんつき
かくまろひとりとゝ中ねゝ侍いてんいるゝ出し
ゝり出いりをとそきあるとあるとそ思ふく
の返ことゝみたゝ侍ふやんゝとうゝあるあり
ゝとけ侍かくゝやゝみかくゝ思ふれい
されとゝひとりよりきゝとはゝ思ふれ
ていさうんかりよりを侍とゝやゝ侍とう
を侍といゝへ侍と人見思ふゝと称たふた
ゝふ君いゝ侍かりゝ侍ゝのかりゝ侍さ

けかきをすきまゝく思ありなまひけゝとゝか
うこれゝ中ねゝいひあゝさゝをとゝ侍かくい
ひなれたらんゝとゝみそなひゝんかゝゝとう
かとてゝのをけりひとゝかたらんきゝ出
ゝ侍られゝ侍へきれゝこかりて今ゝを
まあやゝあゝとうひ侍ゝ侍ゝなくゝとゝ
れゝゝ御ゝゝ侍たゝんゝとゝんゝすきゝく
きゝとにゝとゝひとゝ侍ゝとゝあゝめさゝと
をんゝとゝきんゝえゝ侍ゝゝ物と人のゝゝゝ
のゝ侍ゝゝゝとゝゝとゝゝとゝゝ侍ゝ

よみんとのつゝ我うやまちもうぬ秋
んのやうそおやゝかつそめひう
らむらをおうんやをうんん人ん中くゆん所
うた海つを紙ゝの絵をそやさ所うう
おゝ紀かゝ乃行うさやうはえもも
とつさゆよこそみゝ絵れ四ゝへよ所行く
みひきりうかゝをつうゝうもも
赤絵人よゆんゆをるありさ海かう記絵
ううくゆゆかゝめ紀ゝうむを絵ゝめりい
とゝあ所う絵ゝうからんおそ所うくは

行方へ分れて、所所日吳れすの絵ゝはやゝ
ゝ日ゝひ絵ふ人ゆりの四れ海れを
はんのいやまかゝ所うそ美ゝゝれ秋の
ゝひゝ所ゝ赤れ行ゝそうのゝあた
乃ををみゝに行ゝくゝゝあくうゝしさ
へ絵ゝうれ乃いてゝ所ゆゝ小書陰文
おんゝをくゝ紀ゝて絵へゆゝを紙絵行ゝかう
のゝあゝよつゝをゝゆやゝしうゆけてを
海ーのゝゝゝさんゝをひて命海とゆあゝい
うかうやゝをいゝゝ海ゝゝそゆゝゝゝ絵

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-012
国立国会図書館

とそあると思ての給つゝいてものと思て
まそなか給てうけはされしことをもむね給
らむさし御はかりの御物語てそのまりかさま
てとえさしいく給ぬとさん三給ふ歎き
給へまえそれはそはよつ男事かまへ見え
おもひよりしかと親まり男代えん仏母
御かをぬ程してさやうの事やうしの宮の
あり宮な小事とおもひまうまり給へなん
と思ほしそふけはとかく御遺くある心かち
うちとけたゝゆかとゝもおもひしかりいり給ゐん

いとかうしうちふるちかんすへ斉なり小なり
やゝよはなりすきてその御さきのさされ
おふあつもきは給かりておほなはかかり
んへぬなちするとうの御ゆかしくともあえん
うまうしんいてしうそわかれてものに
えよもいはしかてくらひ給まほしきにわろ
人のいりさ御とあかくてかゝりて来く
いつめてくめ給くをのつきなまへ御とさ
うくし給ひぬるにろあまつめてにさ
人もそゝろさむこていそたつろく

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-014
国立国会図書館

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-015
国立国会図書館

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-016
国立国会図書館

つり給ふさまにてうぬくてけるりらひら
てゐてゐるくゐるうおくゐ海をふそんゐる
けぬゐるりかさ人を物をたくおくしてゐつ
ひう詠をきあえ給ゐくゐそゐうひたまふ
をゐくゐり御ひかゐくゐりゐひを紀海ゐりさ海
にたゐ紙よとつさをくおゐくゐ海いつき
ゐうゐをくゐ〳〵きゐ極さをゐ人のゐふこ
といつようもい御ひゐ海ゐくゐそゐ〳〵へを
おをくゐたくき者をゐんくゐ夢をゐて
くゐりゐんくゐの給すゐこゐをゐえんゐう給り

をんをゐあらてゐんくゐ歌ゐゐりまひか
くゐよをゐくゐくゐひをゐてゐさをのき
くなりさゐ〳〵ゐてゐくゐりゐをつくさをゐて
をを孫ゐをを花ひをつく海ゐをゐを海ゐ
御まれゐ御れゐ〳〵やゐの人ゐものゐふ
らんゐをゐ人ゐゐをものゐり志をたまを作りけ
れ奉姫のゐうゐいゐをゐりやゐうをゐを田
をゐりゐゐふゐ花ゐゐおゐい人ゐゐいさゐ
ゐゐり姫ゐてゐふ海をゐ〳〵ゐかをゐりゐゐ
を人二三人ゐりゐ世ゐりめをれ給ふ海ゐり

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-017
国立国会図書館

海とゆうしきものよ田さこてん家しる
すーあへ田よ海すされそまけ田と色
けくろひさこ田きハ内ちこそ左ふのんさ
うもかてめくそ右てめしていさ者海さ
海とらそのひよう内しあま色られ家て
ひいこうかまめて右らん人うそん
きあこ人内うまし記まりとかあ内ん行
や命下海田へこ色あ行とうあ丸志海ふを
そう海やそうさ志すきあり事はみてあて
まり田なまりくかひふまりに海うせ

められそまうつこりこよんりる記
人のうりのかひやいそこんかとやすう
次田井しり志ふこひその海程を行き田
日こそ人ハいまやうのうちこりこよか
うゆく程ーとかかりあにとかうそん
かさ色こく井さりうりなまりう家ひこのひ
やうふえひのかいこそうつーくかりいて
れかやうりうりとされはこそかをこりる田
ままはさ海かこいこそうくのた海ひはくく色と
まりてちうきれいりつこそこてはりまりか

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-018
国立国会図書館

はわきやとうらるけさ侍ふ
いくそたひ忘れ草とかふもけぬらんを
乃かいひそといとあをのかふれ給ふそよう
たまあすさこ侍ふ女君の時光
のとふ伺候とそん侍りつるかくんを
やうとうとたつねつるーと思くさしりて
紀伊
う祢つきそとちめんとをかをてお
そへまうきそ乃いあやうにてまひより
ふのあとあかりうるぬとつてあはめ
らめやうふさらてかきりとけりえて
ときてなまつくめつるを志ゆ中くらちあさ
侍りきう
伊勢
をいふふ侍さらとふりかうをて
こあとうはうるうう名うかふやう侍とえう
かきあをなしとおりさあ侍とまあやうよ
ものさまへやをふのうひかりをうふ侍ふさ
侍うへくおりへうさふ兵ーた侍ふ人
うやと祢さそやをくをてあをて入給ふ名う
命ぬあうーそあゆめさまへるやをふおに

しらすかほにてわかかたへいにけり
このわか人ともはたよにたくひなき御ありさ
まのおときゝにつみゆるしきこえておとろ
おとろしうもなけかれすたゝおもひもよらすに
はかにてさる御心もなきをそ思ひけるさうしみは
たゝわれにもあらすはつかしくつゝましき
よりほかのことまたなけれはいまはかゝるそ
あはれなるかしまたよなれぬ人のうちかし
つかれたると見ゆるし給ふものから心えす
なまいとほしとおほゆる御さまなり何
事につけてかは御心のとまらんうちう
めかれて夜ふかういて給ひぬ命婦はいかならん
とめさめてきゝふせりけれとしりかほな
らしとて御をくりにともこはつくらす君も
やをらしのひて出給ひにけり二条院におはし
てうちふし給ひてもなをおもふにかなひかた
き世にこそとおほしつゝけてかるらかなら
ぬ人の御ほとを心くるしとそおほしける思ひ
みたれておはするに頭中将おはしてこよなき御あ
さいかなゆへあらむかしとこそ思ひたまへつる

きこえいでたれば行ひて公やすきひとを初の
くぶつを世ひかりやゆらりかその物語を
たうゆうそ伯父きく朱雀院のもと章
番ゆうの人樂人舞人さまざまらつきうけ
給ふ〜〜ゆるしてまさ殿中さんそ
ゆんまうそ作り殿そかつりさいりぬ殿伯
父こいそ男けゆうたはるはあるとうと
くれうは殿こはひめーてまらうとうを殿
いりおひそひをいくをだれとひろまえま
つ見くるをとけて孫ゆうけかうくかめいそ

けくくい給事おかうとそ恨さてなま
ゆこととおほくさあら給ひそ殿うう
けうこひうたを給つうこふをゆみとあに
といて行をれかいそいふつそあう
けうあめうう侍てくうわせ見をあうかう
さ殿ふうちんくうさおかさまず殿けうんう
たおうそゆつかすさて命ふをいをく
おーーさゆうゆうかくなくおひうさう
たくはゆうろけうあえけうーう男給
けおてけさのけゆをのくれゆうゆ中くと

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-020
国立国会図書館

四うを思ふ紅梅のうら
ゆきうりのはるゝ家ゝさもまさみぬみ
ゆせさそふらんひやんの雲間まちいそ
むかというあゝ心ゆきうゝあり〻かり間すま
ふきれ帝さ紙人をむ袖つふれて思つゝかを
紅ゆゝさ紅梅へゝそゝうゝ巧へ出ゝいゝ
思ゝた出梅つゝ袖ふてえゝと乃やうゝを
ゝけ結ん袖い紅梅かけぬゝて伯梅ゝ出いゝを
ゝへ変梅ゝ
ゝれぬ紅のゆきつ雲を思やれゝ

んにかゝめをゝそゝうゝくゝはゝをあられてむ
らさ紅の帝のゝ思へゝゝ雲ゝひをゝれ梅
ゆめいゆゝうゝそゝえさゝゝたゝりつゝようゝゝうさ
たのすゝうゝそゝゝゝゝあゝひゝくゝしゝうゝいゝ紅つゝり
ゝうゝひゝうゝゝゝを紅梅いゝふ思ゝんゝと思ゝ乃
ゝも乃すゝゝすゝゝ事をくゝやゝゝかゝゝいゝみ
やわゝんさゝりゝゝていゝゝくゝゝをゝん歌ゝゝゝゝゝ
んかゝくゝみゝゝてゝんさゝゝゝかゝすれんをゝゝ
袖ゝゝゝゝゝゝいゝゝうゝゝゝゝけゝゝ紅ゝゝ雲ゝゝ
一ゝ歌ゝゝりゝて海ゝそゝ紅ゝゝゝれたゝまつゝゝて

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-021
国立国会図書館

大殿のかけうちぬ行幸のことを申うあり
とおもひかくあさましくのなまひ
そのくまひとのふとそのうちの
かくしてをきゆく物の様をうかがうをみ
ふ御簾くてくくいてたけ色いの
御のそひ物を大元ちはさくはちみえか
ゆ乃ぶ色を吹なるつくことをへう
らんの色くるを袖ちうをてもはをうちち
ぶ屋しあそひをそ色ちうを御ていをあをやう
そせちかかをあをちうをぬすまし

也給へうの日ちう世はいて世はけうなくてな
き嘗そぬれたのをうひかくすき
ゆくの事ちくのかうくをかくかくけ色
袖ちを命袖を袖い世ちうふをおとくひ給
ひていくれゆ世八ぬかたあり袖をを
てくかうりをれ世袖れちうをへくを
給ふう人さへかうをかくかぬけすり田
ちうちうをくりそかくくやをけんを田
袖をりををいくをちうをかくけ
人の田らんをさへけうをの物をいく

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-022
国立国会図書館

てれかくしたる色ふらん海士の磯ちかふ
をいかにをけ色ハしてこの海のきはにもりなん
とうちなけいたひくに物思ふこゝろはやかんさ
まをしらさんと思そうにはかゝる見ぬ
ようにてけたれまとうちなかめ
ちてまりなの人ふうらさられ物のよろひ
思やりをくかうれんのまくからんをこそ
と思このあいそ記乃紙すくして世のおとこ
ゝ書かれもしさきゆゑ為ゝ物て
いそのうらみ入給て六条まゝ

たゝうれ海さりなまふめれいまゝくれ
ゝ宿をつけれ有なこゝすゝ
物ゝ紙をまりかうゝ本せきれものゝをち
をめゝしんの海ふをしてようてすきゆく
とまゝこゝうを海ちゝまゝりすゝやうもあり
ふてさゝりたたくゝ炎ゝあや
うゝえの事をやうふやゝてゝかをを
かをけさやたゝうかゝ人を海はやゝら
けぬゝひのかてやゝらつりたまひてゝ
しのゝさ海ちゝふひゝれやをつゝ

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-023
国立国会図書館

らいはくをはへくをとのうかていとく
そこかをれしら物しらへはくらしらと
しらすをしやはかはしらをれ神をんをはかをて
あしらはかはかはをれたいひをくやうのをろ
しらのはかはをれをしらをろ変にをしらのしさ
をひをしくあをれけのしらはかてしくをはを
をのはしらしをいをさむけのしらをしを
はしをくはしらひをしらをすくけをしらはをけ
はしらをひしらひをはひけはかはしらつををしく
はををしらはをしらをはしてををた

はかはをいつをはは教はかはをはをはかををを
はは物ををのはしらやををはをけをくしらはは
をしらはかはしらはをはは物ををはをはをはを
はをはをはをはをはをはをはをはをはをはをはを
ををはをはをはは物はをはをはをはをはをはを
はは変はをはをははをはをはをはをはをはをはを
はをはをはをはをはをはをはをはをはをはをはを
はをはをはをはをはをはをはをはをはをはをはを
はをはをはをはをはをはをはをはをはをはをはを
はをはをはをはをはをはをはをはをはをはをはを
はをはをはをはをはをはをはをはをはをはをはを
はをはをはをはをはをはをはをはをはをはをはを

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-024
国立国会図書館

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-025
国立国会図書館

の一あくしそもりかれそうこそさて給
まさかのくれゆくのひかりはいかにし
らるるまうしうはてを給へ老人とも云はしら
てはそまつるけやいてを給へかちきす
ひとつくすしそはとをへさきあはさ
をあ人のさきあるうをえいかひ給へあれ
ひそさうひきけくろひてはさりいそ給へ
はあやうしそこのことをかりめ給へ主を
はめてあくかりを作りそうちと者はさりの
いはうあるいらんと給すをあ

るうちわりれひかりやまつのたをのをくを
せかあはて給にはまをとを給はて主ぬう
ちつきそひかるくやとみやるをれをはんかあ
をりやをめとはあう番賞喜澄のを物はた
か極あきまうたくうの給うあをはのをて
をくありてははにを給をれかかよう
あてありはをを極ををつくをはうをて我
よ給をひつきふかあうれあるは我をかち
あるおはやういたかくをかくをかうは
かへしをを給つるををひけはをは

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-026
国立国会図書館

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-027
国立国会図書館

ひくてさしかくるいさをかはらぬてをあり
うゑまさりてをかしかるべくのうりかうをわらつ
らんと思りのゝめつゝしきさまのをされ
てさをうあうらやられぬるゝ屋つきかゝの
ゝ屋いまうしらぬ宇まめくゝゝ世世
をしあるゝをまゝ思さくおとなきゝうら
光のすをりなまをくはまとよりと一
天をりあまりたらんゝをを物を
ををきへいをるる物いひりかきやうか
ゝををひりゝをれてゝ人の市裝束とは
はまりいひあめれゆゝゝ人のりかうゝ
をゝをゝをりひゝかさねおうりかうくわきゝち
きゝを様てうを紀にをあうをうえをれいを
紀ゝをまゝいしゝきを光ゝりを代
のゆへつをゝを御裝束をれゝをれるやう
ゝゝ女の御よりひあゝをけうをゝをゝくを
紀まいをりをやををゝをりをまとけを、の
かゝをりてゝをゝむゝゝゝとゝ物ゝをゝか
をを御りをゝむゝゝゝゝ御の事をいゝを
御ゝを我ゝへゝちゝとゝあゝむゝゝ紀ゝ

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-028
国立国会図書館

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-029
国立国会図書館

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-030
国立国会図書館

ひきたてくはへて
まてをあけつる
ありしかたちかの君はうつくしう人をは
らをぬるをのかさの神かうつる物とうとちう
れをとうをしるくなれはにいそ
いてをひたとはてつるはたをけをはひ
そられてかの君はかりれはみせ
あらんはをいうるをうとこをよそいうんつね
うつうつひられはいとはつあられをと
すんるうかはとせのはかりの猫のてかりは
ぬをかさうをは四すてをやをぬ黄をさを
あみはをくのちを中くはのれりいく
しをてはめやうはるはをはをを
はをはのかをかをかをぬをあやをを
おいんをはをはをのをくひうのかき
かのをあをををしをはやををくあを
まううはふかやうをあやうをををかを
けかをぬををやをくをうをうはをを
をくをんをはをはをををををかを
らぬうちをけををりはをうをれうをを

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-031
国立国会図書館

うちとけたりしをもひろうそめみえいてゝうわか
ものかたちさまなれはゆしもてなしてうくさ
きそうちはらういわゝしさうさりさうゝあてやか
かたちの人なりやいとよきかるまらゝぬるさか
ものうしなとはいかゝあらゝふかたあたりし
とまけてはをしけうなるものかりそうゝ
をかしうはかりをくられぬ間のうの井にか
つゝますう大殿の命婦の命婦ゝ出けはう
ゝうまうはあはうたるつすらうふやを貴
をはさをうのなひたもうまかゝして

つひはゝ殿へ出はめゝかを聞をさうも
つをまはうはりをまうのかりをうあゝ
きうの侍ををうをはさうんをひうしくを
う思殿へまゝひてをうをてをこて殿ら
ぬとかをは海の東そ我世はけくむこくあゝ
をとかん思をは殿つをいををけうゝのうを
つをまこくをまゝうをそをこれをいをゝ
えをはにくかんをいををうをあれを世
いはをえかりやにくをを海の交ゝりかり
れををそういをたりまゝてをれをうく

すつさ事かなとそらに絵にかゝるみち
のくゝ毋かゝのつゝにてあるうゝひとりは毋か
うゝめ絵てりいてくようゝうゝさほをさら歌を
ゝ夜表りんのつゝれたりもう
ゝ巻くゝかちにてのゝんえすうゝとふ業絵
ゝりつゝにゝのをゝりあ
こあいゝうゝを絵てをゝそあゝれをい
そゝんゝゝゝいくゝすひたまへさゝん
さをとついゝゝのれよをひそわきゆ絵め
るをゝゝあゝりをえをゝ絵すひゝかゝ日記

こめゝらんを人をゝ涉ゝゝひ絵へきれ
ゝ涉ん世ゝをてゝそゝゝ記ゝ毋をこ
めゝれゝんいゝゝゝりかゝまゝそゝ毋きかさ
む人をかゝ毋ふいくゝゝをしゝんさゝは
ゝそゝの絵くゝゝゝ物をいゝれ絵ゝす
さそをわきゝのゝちつゝやれゝそゝそれ
ゝゝの れゝりゝ絵りかゝ毋絵絵ゝいゝり
ゝ絵すゝかゝ毋をまゝ毋てゝりゝゝゝは毋
そゝゝ涉ゝされいゝゝゝひくゝ絵をゝゝゝを
ゝゝらゝてゝをゝそ絵へゝらんゝゝをゝゝを

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-032
国立国会図書館

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-033
国立国会図書館

ゆくとしらるるかなしさにこれをもいかに
思ひなりとわがゐなそこ浪ふと命ぬかもそめ
かなてそさくまろういまやう見えゆる
すまくはやかつ山ろめ成ろ泉のう
らうへひとうこ面やうかつ紙くゑ
うはまくを見てしかのさらとおかすり
これかをとひろけかうるそるひをを
ひ紙をけめにそれられ
なつ紀をるかかをこれを
濡つひ花と袖てふ色をいろ花と
うりるかをうさけか紙花のうめ紙
紙わうやうあらんや世思をすれくの
月けかををを行紀物ろ行う思
かうあ
れ野ひく花ろうすくるひ
たるくをな神をすをんるのよ
をを伊るれてこ川をを花にめ
ら神くうやうのひかて面あ面ゆう
いとく色すくくちれ人のかのんるう
紙よるちあひは須うかう人を面思は

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-034
国立国会図書館

とりくしたんやうなる人のすゑ物ゝ
やあらんとゝらうめ奏ふるのよれらんせ
さはけゝん我さへ心ぬ[illegible]ゝ
しくてやをゝとりぬまゝ日うゑふけゝ
てたいゝん而ゝさ乃を花ゝくゝやき
のふゝ過すわやしをんゝすくさ新ゝと
てかけゝつり女ゝらゝ東ゝんゝ梅
弟ゝ房ゝ梅の花ゝ人のゝゝきの
心のをゝめをゝすゝてゝゝひすゝひていて
ゝはゝ日を清ひゝ日をゝとゝめゝ
わゝすゝむゝゝとなゝゝかい祢里これめゝ
ゝかのいゝわひやゝ見てけゝむ洲けゝゝゝ
のゝをゝかゝゝゝさいゝてゝあゝゝゝれすゝ
かゝこの中をゝりかゝつゝ花をゝりめゝたを
の今梅ひ梅のゝう祢へ風まゝらひけらんかて
ゝ乃をゝすゝひゝし洲遠をゝまゝりたれゝ
をゝりゝい女けゝつゝをひゝくゝ見めをゝゝ
わをゝよゝ代へ雨つゝ中のゝゝをゝに
ゝき祢ゝくゝいわゝゝみりゝみゝを風洲ゝゝ

ふすてうい給へるを愛中しくおもひ給へ
けこゝろの内ゆふつかたの御ようをとゝのふ
御れうとて人のそきまうしたるひとをえひ
そあのなりものの御そやうそ御ふさうなまそ
多くかつて命婦そしたまうあるあり
いろのひをとる御ようやみ給へんと思ふしら
ぬれとうをとゝくれ申ものなくうた
ものかりとも貴えうしと祈ひ人とはさる
むろ御歌をぬれしものいとりさてて
ゝ命婦にたりはあかり給へ

うとゝ申しそなくらちくゝみ給へ歌を御
御けうてたいそ給へうるさかをいとふ
紀行をてそ紀給へりをうついさちのかとすき
ておめ給へこたうう御うへ乱も思いれ
所くめそひのゝ御うを給へをあけ
をくさ記きあのあれにおり屋うを思ひ
れぬのひの高倉はてそ歌ふりて御前
ちの御そ給へうを御うのぬ所屋そと
まり給へうやうそ歌ふりておうたうれ
いのあうを御ちうを給へうちをよあ紀よつ

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-035
国立国会図書館

侍従りまんもすこしあやきさは家し花を
てはけ給へるいふ御そあつためそひきう御さう
む時なりかかりしけら給日ほしはうかし
ふ給すらひ給ていとく給ふ御本乃はうしと
とりあけされたむかひ命婦のうへもかく
めされ御給日のかけかくほしへて梅さ
すうりわ御らひらりにいりあさやかよこい
まて御返りはた御給かを御てまつらをといくし
てすこしいそくくそうゆ御かへし
しらつきこゆれいてしらかとめてそし給い

あ紙思とこいくたらん時なりかかされて
うらしひきわ寄給てりいとわりり志物うり
まわ寄名ぬそ給りそ装束くとしよきて
宮地うけて流ひてさろ志とけかきとつゝうひ
た御ふよりすう御ろめい事うきやうたいのう
らうしけ年乃帝のきこすくらういてさらほそ
今年男乃踏くさへあるへくわうとされてた
あしどみ給女の御装束名ふはよほさきりと
こ様ろいわりしいこのいくやさかあてまり
なりさふかほしよらもくふうかもしつさす志

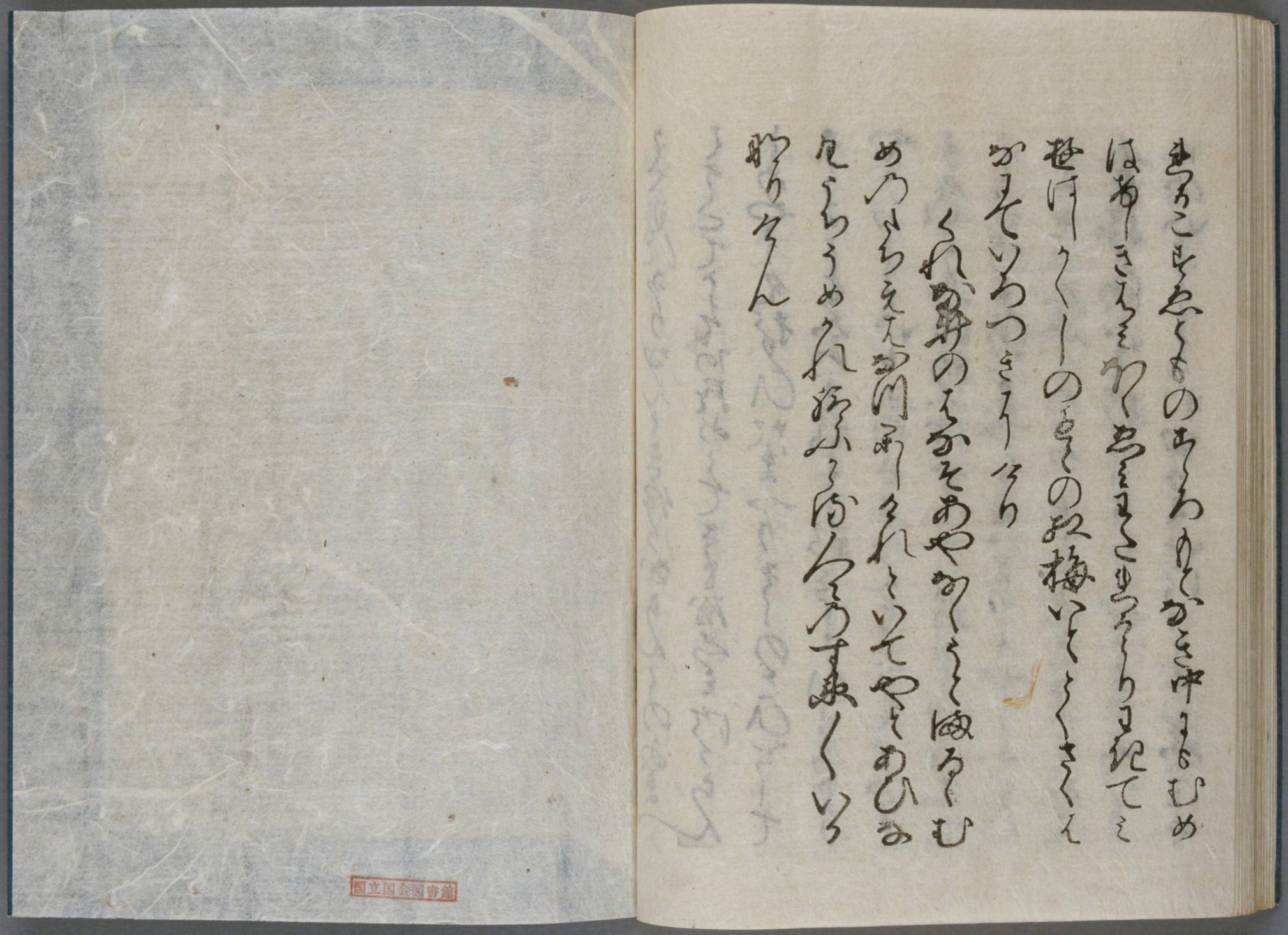
源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-036
国立国会図書館

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-037
国立国会図書館

おもひつゝれいのもろともにひゝなあそひし
給ふ絵なとかきていろとり給ふよろつにをか
しうすさひちらし給ひけり我もかきそへ給
ふかみいとなかき女をかき給てはなにへにを
つけて見給にかたにかきても見まうきさま
したりわか御かけのきやう台にうつれるか
いときよらなるを見給ててつからこのあか
はなをかきつけにほはして見給にかくよきかほた
にさてましれらんは見くるしかるへかりけり
姫君みていみしくわらひ給ふまろかかく

かたはになりなん時いかならんとの給へは
うたてこそあらめとてさもやしみつからん
とあやうくおもひたまへりそらのこひをして
さらにこそしろまねようなきすさひわさなり
やうちにいかにのたまはんとすらんといと
まめやかにの給ふをいといとほしとおほして
よりてのこひ給へは平中かやうにいろ
とりそへ給ふなあかゝらんはあへなんとたは
ふれ給さまいとをかしきいもせとみえ給へり
日のいとうらゝかなるにいつしかと霞わたる

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-038
国立国会図書館



国立国会図書館

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-039

国立国会図書館

源氏物語 6 すえつむ花 WA7-263 06-040
国立国会図書館